

## 今週の為替相場見通し(2018年6月18日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		109.23 ~ 110.90	110.64	109.00 ~ 111.50
ユーロ	(ドル)		1.1543 ~ 1.1853	1.1610	1.1300 ~ 1.1900
(1ユーロ=)	(円)		127.72 ~ 130.35	128.46	126.00 ~ 131.00
英ポンド	(ドル)		1.3212 ~ 1.3446	1.3279	1.3100 ~ 1.3400
(1英ポンド=)	(円)	*	146.28 ~ 147.99	146.91	146.00 ~ 148.00
豪ドル	(ドル)		0.7438 ~ 0.7623	0.7438	0.7300 ~ 0.7700
(1豪ドル=)	(円)	*	82.27 ~ 84.16	82.35	80.50 ~ 84.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

## 1. 米ドル

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1)今週の予想レンジ: 109.00 ~ 111.50 円

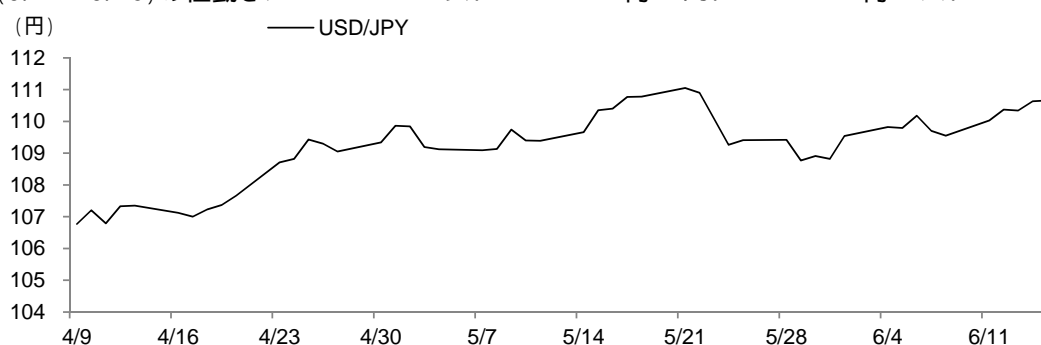
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は上昇する展開となった。週初11日、8~9日のG7首脳会議で米国と6か国の対立が鮮明になったことから週最安値109.23円を付ける場面も見られたが、日経平均株価が底堅く推移する中、ドル/円は110.00円付近まで上昇。12日、米朝首脳会談を前に期待感からドル/円は110.49円まで続伸。会談は友好的な雰囲気で行われたものの、合意文書には核放棄への具体的なプロセスの記載が無かったことから反落。しかし13日、米朝会談は物別れになる可能性もあった中、友好的な結果となったことが再度意識されたことでリスクオンの展開となり、ドル/円は110.72円まで反発。注目のFOMCでは事前の予想通り、政策金利の25bp引き上げを決定。声明文からは「金利は長期的に有効な水準を下回る」との文言が削除されたことやメンバーの政策金利見通し(ドットチャート)では2018年の利上げ回数の見通しが4回に引き上げられたことから発表直後はドル買いで反応し、ドル/円は110.85円まで続伸。しかしその後のパウエルFRB議長の会見が期待ほどタカ派なスタンスではなかったことや米中貿易政策への懸念が再燃したことから14日には109.92円まで下落。その後、ECB政策理事会で「マイナス金利は来年夏まで維持」とされたことからユーロ売りドル買いの流れとなり、ドル/円は一時110.70円まで反発。15日、日銀金融政策決定会合では予想通り金融政策は現状維持となるも、物価判断が下方修正されたことから週最高値110.90円をつけた。しかしその後は米中間の貿易摩擦への懸念が再燃したことで110.39円まで反落し、ドル円は110円台半ばで越週した。

今週のドル/円は上値重い展開を予想する。米朝首脳会談では非核化に向けた具体的なプロセスは明示されなかったことに加えて、会談後の両国の報道を見ると、合意文書への認識のズレがあるように見受けられる。ポンペオ米務長官が主導する協議は難航することが予想され、完全かつ検証可能で不可逆的な非核化へのコミットを北朝鮮から引き出すことは容易ではないと予想。リスクオン一辺倒の流れにはなりにくいだろう。また、開催されたFOMCの声明文はタカ派な内容になったものの、その後のドル/円は上値を試す展開にはなっていない。米経済は好調であるものの、FRBによるテーパリング観測が早期に高まることでドル/円が大きく上昇する可能性は低いだろう。米中貿易戦争への懸念も意識されることで今週のドル/円は上値重い展開を予想する。今週のイベントは18日(月)にダドリーNY連銀総裁講演、19(火)に米5月住宅着工件数と建設許可件数、20日(水)に米5月中古住宅販売件数が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(6/11~6/15)の値動き: 安値 109.23 円 高値 110.90 円 終値 110.64 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。  
しています。

レポート全ページをご希望の方は、  
お取引いただいているみずほ銀行の  
お取扱店、またはお取引担当部まで  
お問い合わせください。

以上